

明二叔9
號 759
卷 1



○ 風竹書

弘化四年二月廿四日夜五半時以信濃國大北庄產而
 善光寺境內其外新田丁分後町大門所西町權堂町先
 石橋小社西町在右石橋所之石所潰山石地
 產不為之火多出來大火成燒失人馬怪奇人夥
 衣善光寺本堂斗所大火燒進屋未少幾門法乃凡又
 才燒失善光寺道以村小祭之村公久保吉町中市村
 海之場也石山南川中凡幅百町程之亦七分海
 場中山所之大地割此也之村大木之地土湖二三
 尺位也出取之小本之分之治方也無之土伴之成生因
 住法曹場町之寺所荒集也凡八町程示為其百
 四五拾杆用凡人數五千人斗以割一死藏不知能治

四月朔の退出不

は、浅の飯山志中某氏、江戸同高申、是借字同日七

以代書
高木清左衛門

○大地震の儀、有山届書寫

○新代書、所届分、此形、位、濃國、言、并、郡、水、内、郡、村、之、儀、有、月、廿、四、夜、戌、申、刻、迄、夜、上、刻、迄、物、多、大、地、震、有、之、夫、不、能、産、勤、い、多、村、地、産、散、り、廿、五、日、卯、申、刻、漸、お、結、地、所、割、裂、派、出、出、一、流、象、人、牛、言、死、失、多、物、多、所、死、絶、此、の、中、有、之、怪、奇、人、物、多、一、村、皆、流、象、お、毎、の、村、之、有、之、前、代、書、申、事、之、趣、進、之、届、出、之、付、取、敢、之、代、書、差、出、申、且、陣、石、許、中、之、村、之、儀、之、損、傷、亦、有、之、迄、之、届、出、之、別、条、書、在、届、書、内、

之、後、之、趣、第、一、の、上、の、兵、先、は、此、の、届、申、上、

但、此、度、之、大、地、震、位、濃、國、中、一、段、之、様、子、之、支配、所、内、に、未、出、火、之、趣、之、届、出、申、上、の、兵、地、産、最、中、所、出、火、多、お、見、本、多、所、之、所、傳、飯、山、町、城、下、之、所、能、前、之、言、身、有、之、此、所、亦、不、能、産、勤、之、上、所、之、出、火、之、所、皆、燒、失、陣、石、由、此、

以上

去三月

高木清左衛門

○地震の儀、有山届書

高木清左衛門

○去月、晦、日、所、届、申、上、の、新、代、書、所、届、分、此、形、所、位、濃、國、言、并、郡、水、内、郡、村、之、儀、有、月、廿、四、夜、戌、申、刻、迄、夜、上、刻、迄、物、多、大、地、震、有、之、夫、不、能、産、勤、い、多、村、地、産、散、り、廿、五、日、卯、申、刻、漸、お、結、地、所、割、裂、派、出、出、一、流、象、人、牛、言、死、失、多、物、多、所、死、絶、此、の、中、有、之、怪、奇、人、物、多、一、村、皆、流、象、お、毎、の、村、之、有、之、前、代、書、申、事、之、趣、進、之、届、出、之、付、取、敢、之、代、書、差、出、申、且、陣、石、許、中、之、村、之、儀、之、損、傷、亦、有、之、迄、之、届、出、之、別、条、書、在、届、書、内、

年少く乾度立尤万々と後事々者々方村々者々悲憫
る一泣取片々々白備農業々々以月々々々因章立驛子
在者安世仕々持私并々附々代共村々山村精々利解々々耕
作々後札々々水地爲々致且去月廿七々々爲信滞々々来々
勢々越々々右大地産々々小國往々々丹波高村渡船場々々
二里半移川上同人録々々平林村地内字屋空荒山元二拾町
程々々山移南岸川は押出々々埋立川中を々切々々流水を止
水湛南河川上平地々々々々河其湛満切々々自地々押埋
口々切場所水力々々押南河々々々河々々洪水々々々々我
々々々々々々曲川傍村々々爲々々々々々々々々々々々々々
右南河川曲川平々々々七八尺減水時居川砂村々々配

山添高傷は立退居悲歎子存切測々々々々々々々々々
湛溜々々々一時々押流々々々又水災々々々々々々々々々々
々外人氣不穩以能信地産々々々々々々々々々々々々々
存々信々々々出届中々々々上

未四月四日

言未信在届

伊勢々々所

未四月四日
○小國往還年礼宿外三ヶ宿大地産々々々立差支々々

出届書

二ヶ宿往在届

是

材言子二百六拾七石九斗三升八合

家數百八拾九軒

一洪家數百八拾九軒皆洪

內拾軒

燒失

男女八拾八人

死失

外死三

拾五正

村言三百九拾八石或斗五升或石四斗

家數百九軒

同國同郡

一洪家數百七軒

大古間宿

男女拾六人

死失

外死馬十五疋

村言子三百之拾五石九升

家數百五拾四軒

同國同郡
柏原宿

男女三拾八人

死失

外死馬

拾五疋

村言九百四拾八石或斗三升八合

家數百三拾三軒

同國同郡

一洪家數百四拾三軒

野尻宿

男女拾七人

死失

外死三

拾五疋

軍弘治代古所任州本内郡北國往意年祀宿外三々宿
之後由三月廿四日夜城中刻以_レ聖王_レ到_レ是_レ前代_レ未
中_レ大地_レ彦_レ書_レ面_レ通_レ家_レ居_レ皆_レ洪_レ也_レ是_レ年_レ祀_レ宿_レ後
洪家_レ也_レ也_レ後_レ出_レ火_レ切_レ心_レ燒_レ失_レ家_レ出_レ年_レ人_レ牛_レ子_レ即_レ死_レ人_レ也_レ我

人夥支宿月及亡所... 禮文之外人... 出... 不... 出... 子... 是... 分... 夫... 代... 義... 事... 中... 如... 似... 也... 可... 上... 之... 兵... 此... 先... 之... 廟... 中... 其... 以... 上...

未甲月

言... 在... 馬... 下

未甲月... 子... 附... 梅... 四年... 三... 甲... 五... 潤... 之... 趣... 中... 中... 書... 留

○今度信州大... 地... 產... 信... 代... 官... 言... 年... 信... 在... 南... 分... 法... 部... 所

一村言五万八千三百六拾... 或... 石... 九... 斗... 或... 石... 或... 斗

内

法言四万子... 或... 百... 八... 拾... 石... 六... 斗... 三... 升... 或... 斗

一家教六千八百七拾... 或... 斗

人数或万... 或... 百... 拾... 五... 人

内

一法象或千... 百... 九... 拾... 五... 斗

内 拾三斗 拾六斗

燒失 土中埋

一半法象七百八拾... 或... 斗

一法言礼場

拾或斗

一法言... 斗

二十斗

一法堂... 斗

四拾斗

一法言... 斗

三百三拾一斗

一法物... 斗

九百拾四斗

一即死人五百七拾八人

一怪我 千四百六拾人

一即死馬百五拾六疋
一即死牛或疋
高七下通一人別或分七厘減

中代官の上金五脚出

○当月廿四日昼夜快晴暖氣多至極程者之処同夜只此
大地産分位州中之余和陣屋搦練堀所之産倒一
戸外陣屋之近邊村之人家子弱分以下家分倒産者
勅了—暫而立浦止不其夫不其死之月を直不絶産
勅所産小方。南。雷鳴之如音有之夜明之迄之凡八
十度余之地産聖於妙之勢。亦毎之其心産勅止不戸
去配所内郡村。之内之流家怪我人亦有之。由。此産の

未祈出而。追。風中。之。越。年。所。同。國。川。中。島。村。産。不。善。光
与。夫。不。南。之。南。山。中。之。島。一。心。産。主。之。地。産。亦。乃。川。中。島
産。之。民。家。一。村。不。所。之。年。産。倒。一。其。上。出。大。之。錢
燒。失。了。一。村。有。之。一。村。凡。四。十。人。移。了。或。三。百。人。移。即。死
怪。我。人。之。之。善。光。与。町。之。家。立。大。神。之。所。押。倒。中。上。燒。失
了。一。大。造。之。即。死。怪。我。人。亦。有。之。越。年。所。同。國。川。中。島。村。産。不。善。光
是。与。供。養。所。物。亦。旅。人。泊。在。所。之。夫。在。死。人。也。多。分。此。産
由。山。中。産。之。之。遠。片。寄。在。極。子。亦。分。中。有。之。風。中。之。遠。之。後
旅。之。難。亦。分。子。亦。連。之。代。産。出。之。配。所。流。亦。其。外。分。分。以
味。之。上。之。島。村。振。毛。之。風。中。之。亦。凡。委。細。之。後。之。追。之。可。其
且。此。産。傳。所。同。國。佐。之。郡。村。之。後。之。前。日。流。大。地。産。致

仲冬之月用差支之趣は年俵儀お中り當思ふ所にて是迄未
筋紀の上陸船お無差支なり所用節々々々此貫月改出
定賃所を以て所為陸支持可仕り或所斗方幸自に差支
儀有子車市中知に座持付度存候。

本文之趣を抄平加知り當来越系差支外三人江戸表加州
金澤迄可取越先觸り遣り府に於て知り本文更事系
小國は色色後差支遣り在り共急之通候に或
抄平各座主用差支同席より先觸り出中山道関
ヶ系宿主の越前通り金沢に越え在右道所金沢京
都に在り所為に於て立主用差支趣は年俵儀お中り
百貫目改出法立り共遣り同様儀の者趣は存候。

段改所出役系代中趣

弘化四年三月候

川上重吾助

○或人之文通

只今津種氏より趣りては示る未立示不出府に於て四
位所宿屋に候りて是宿家は凡そ数人死生人有りて
おし者寺人たるもの陰に助りて祈を給成宿屋を修
造し出に無難に居候。余若し一内にて座主共
之趣を以て御し候り候。此の趣を以て下畧

四日下

後日寺より在り人七人連り四人助り南春助其者三人死失り金々々
武方与江戸表持寄り金々々不金々々分論四人助命の者しりり家
根に抄後出四五里街に在り此所より用夜出表の由中り各々其子記云

三月廿六日

和平丹波了

代本之書

代本

○大地產產雞口救為傳之儀二日何事
其言五方午三百六拾或名九斗九升其心

内言五方七千七拾或名九斗九升其心
村言四万五千或百八拾或名六斗九升其心

一 代本或千九百七拾七斗

内七拾七斗

一 代本或千九百七拾七斗

代本或千九百七拾七斗

九拾七斗

一 代本或千九百七拾七斗

内七拾七斗

代本或千九百七拾七斗

代本或千九百七拾七斗

代本或千九百七拾七斗

但代本或千九百七拾七斗
不用立

外

代本或千九百七拾七斗

代本或千九百七拾七斗

代本或千九百七拾七斗

代本或千九百七拾七斗

代本或千九百七拾七斗

右之由三月廿六日夜七地產之新代本或千九百七拾七斗
代本或千九百七拾七斗

道中事子信子記其出秋後山村仕村之災害之種
子見分付心誠心語奇變之伴以備仕是之土地面
割利長七八寸五六尺余數千石種之節立用右割目夥去
黒赤色水泥水吹出井川に成通の場所有之其示之山
浦土砂水押出大石轉落田畑共悉く変地致之為分は獲
地お身村に用水致す所は欠落崩及大破或は床邊に成
場所有之水高あり用水絶たぬ村に少く有之谷川等
之分大石土砂押出之度程而欠落崩及大破水力を盡平一
面溢出水押出一旦決水之後は山崩並平押出桁
梁利目障木亦其外建具夥折碎為材法多具其寒く折
毀千振り貯置に耐付て之土砂押埋り水分散りて雨即
及島根村に水前より備村役人共迄亦之災害の更に致云
片付心信も多し強し決水前二旬内一雨も多し雨も成
不致日途方之憂此種と致し居私を乞傷狼狽に成
涙止かへ間絶たし一病も若く出多し且伏居少お老
善男女共泣喚居候者人共夥多の倒苦痛も多し有
棟柱も中上不保至極難儀仕候れ村に共日種に決水も
差高し夫等も傍者も之の共致決水の下者之殊に決水を耐
容易に云出し候者多し水前未だ二旬も夫等も多し有
共のり又亦あり用水を用來に泥水交りお成在飢渴に
自他村に一般に危難助合も分致多し且是等も救方未だ
手前五年の文に詳記之共百十村余に候者多し候方未だ

「未四月

○ 志田家、山形、河津、河津、河津

一 去月廿一日、志田家、河津、河津、河津

死人千九百七十九人、怪奇人、四方、河津、河津、河津

七物、河津

河津、河津、河津

一 去月廿一日、志田家、河津、河津、河津

倉、郡村、方、立、志田家、河津、河津、河津

且、志田家、河津、河津、河津

若、志田家、河津、河津、河津

二、志田家、河津、河津、河津

○ 志田家、河津、河津、河津

一、志田家、河津、河津、河津

弟、志田家、河津、河津、河津

水、志田家、河津、河津、河津

軒、志田家、河津、河津、河津

社、志田家、河津、河津、河津

寺、志田家、河津、河津、河津

田、志田家、河津、河津、河津

次、志田家、河津、河津、河津

後、志田家、河津、河津、河津

之、志田家、河津、河津、河津

ホ、志田家、河津、河津、河津

比外山移し様子いふもすあふり山後方城天変いふ
 を放りて世々評にふあふり山後方城天変いふ
 作去あ中老人の死失無事なる者実々幸い
 既ニ遊覧前志竹村此許役人皆見ふ事いふ
 多し聞く此節の事又此上事いふ事いふ
 松代番馬より令し知あり大難と此節いふ
 事第一之幸いなる事いふ事いふ事いふ
 あり事いふ事いふ事いふ事いふ事いふ

弘化四年三月廿四日夜
 大地震引續廿九日大地震
 四月五日松本領町人差越後
 繪圖

寺光

丹波島

日知

丹波川
海舟

比外山移し様子いりますありあり後方城天変いふ
 を放りて世に評いふありしはゆるしむるも
 乍去あ中老人の死失等事しるる實事なり
 既に遊覧前在竹村此許役人皆死に命を
 賜ふ間々此所の中又此上事なり
 松代番長より命に処あり大難と此所いふ
 事第一之幸しき事存しとてあり
 ありとありありの如く江戸に
 あり

丹波

弘化四年三月廿四日夜
 大地震引續廿九日大地震
 四月五日松本領町人差越
 繪圖

寺光

丹波

丹波川
渡舟

山上真

相川拾崩興
成信三之五拾
間程九拾余
斗當時

山崩上

石川十河

水谷河

山崩

此村水難
山震動
無之
死

川上通川中島
善光寺
水一切無之大難
義之由

水難
山崩
水難
山崩
水難
山崩

水難

水難

水難
山崩
水難
山崩
水難
山崩

水難
山崩
水難
山崩

川中島用水

川中島用水

川中島用水

山之原より其上三層所より出火烈風を旋拂町家九多あり
焼失本堂山門本坊七五焼ありのこに餘不焼跡焼前代赤
之天変希進と所より寺餘八千人一人別三子一人餘死是
詣と道者凡或子一人餘死在外在在甲所多日焼死者何人
多しと不知なりと由

一飯山城下井上田飯稻所山村に古善之寺町日焼地七層と
出火付土地と考し勿論止宿し道者も夥多死に其外水内更
神五郡の内小國は色所日焼け家并死人もあり未だ所付
出火多下均所あり丹波島より考考と色今二具氣多
性多平身鼻を掩つ海に居る

一陸奥之地原に於て位徳國の北内郡根本に於ては是く山崩地
陸奥又一村皆焼く物あり方々高井五科埴科石原安
曇五郡日焼山崩焼多あり場所多あり其地甚多
其内之土地原等より所之流弱多之小縣佐久多郡佐野
元色多及流の程之家族多あり夫れも平常之地原引り
乃ち大地原もよりなりと由

一越後國七日焼大地原より由なる其風やと事一なり
なりと由

人

牛也板町

家三王前助解

若沼

三指を七

日所横町

高直紅

若芳伴

山崎女子

○右邊の役年流を供に連高二月十三日江戸表に出立
 甲斐系を討ち其の年を板町に之物取の上中仙居をたす
 位州中内親善寺口三月十五日午三時入關扉府系徳の仕立
 月廿四日善寺町旅立初度寺佛堂に居る方止宿法
 法園寺法外群集伴一仁方にお宿のもの元或百五拾二人
 程舟由船宿平船候し表二階に或舟をたす宿共
 於人未だ成良の宿に宿し宿共一回首

与和知而得の湯水有村人等を去り山脚に迷ひ居るに
在り由有る氣危許之國に所出店中より去るに

与和知而得の湯水有村人等を去り山脚に迷ひ居るに

○ 弟乃舟中夜更に別以り地を去るに信列上田町方表
通度前年より併家と和共す未の若客より亦若石は集
轉居報迄下り川筋宿五軒港の中へ余三軒港別
所温泉止り湯無し神宿戸急宿港亦多分者し矢代
武三於乃港大地裂中より大深川経泥砂吹出り壺蓋并
進分丹波高野河筋宿移り山五河院失仕に死人二名
善光寺河院失仕壺山門斗に残り死人凡三千五百余且皮
名四百人死人多し松代信宿所馬場町市所通り半

分港より外死人百餘人而近村高津死人數多知由少は
高川水一向無し石川上山中より南方へ山崩押出川を堰留
俄に激し出針松代は餘り凡三方石の物亦一面水に成水
落居年一石川の沖歩り川に水も高野町出有るに新野美
中より山林に逃上田中野道より平一田杉本を色
居宅に位高野河山林田畑野宿致善光寺へ山崎地を
八廿七日迄致有る由有る高野宿より松上河を渡り牛又通河

松代宿の由

○ 彩立所信宿松代去月廿四日刻刻に大地震後迄是等
は御上より通河より高野宿に於て止るに屋敷に中
より後世に於ておる日廿九日朝晦夕有るに

千曲川は流也送流致 院之居城海之水多し押上暮
時夜段下屋九り所道千曲川平水水内郡二丈斗お修川中島
向海言并那水内郡内川原村水内郡の中水内郡一五丈内原向
音結おん水内郡所し表村有し作物注射ハ向海押
堀内園所夥多水内郡多しハ其難見極事多し及り向
海之水大にお立水内郡根子ハ其系受及し次第ハ向水ハ
込りハ多村方之者共ハ防手南戸付直なるハ俄押出
未嘗有水速有之大水存升有之義ハ向流向ハ向海溺死亦も
数多向有し其甚上多分ハ捨地ハ出外ハ向ハ心痛
死苦多向ハ向て直向海調有中ハ其是之在也向海ハ向ハ向

甲子年四月

信濃守

○ 甲子年四月 信濃守 所起信濃 言田三ノ四
亥月以り大蛇産る城の信房向ハ橋園堀石獲
多中石浦堀石町所分村ハ信房向ハ石獲石獲人
言信房向ハ北國信房向ハ所ハ信房向ハ信房向ハ
ハ信房向ハ信房向ハ信房向ハ信房向ハ信房向ハ
信房向ハ信房向ハ信房向ハ信房向ハ信房向ハ

甲子年

信房向ハ信房向ハ

信州飯山城の信房向堀橋の石分飯多石獲
堀長ハ

破獲回四物地不救而居且少縣佐久郡と云る其後無事
是又古歌傳屋に候し中野系傳屋が為る其後弱む事傳
屋兵捕捕指櫓（一）と云ふ外別系傳屋

一 一言家と云る是も町に候し別名海地と云る市中津川の上出火と
元九下通焼失人し物表法國と者多集居候し旅人之
生死も宿帳に記失之被方不し而人数も多計其表し
者元三子人移し死亡旅人之大元或子人移死亡し由風中者之
元中堂山つと別系傳屋し本坊に候失不致申津日徳し由且川
中邊二日津家死人物表大御中下通候し中二茂松年伊勢
殿候し稻倉山村に津川上石残焼失し一旅人并所し者元
五百人程に死亡し由是も別名海地と云る候し後し松別候

年しり兵城下町と下通津家と云死人し者之り由中内郡山
中と唱し物所共一町に元九下通し津家と云之其上摩川
水内橋と云る川北之方長井村に内枝の橋并山南之方平
林村に内枝の岩倉山に夜夜南枝の民家石踏損止摩川留
切湖水之如し水溜川傷村に長三里余之物移五六村水下
相成流失死人し由福田畑損地物表者之由風中者之是又水
崩落の場所と長八丁程者之と例言山と云し水溜りり
面三千百余方之川中と宅下と相成居り其照燈の極別と
水溜りり一昼夜と武三尺（一）なるし八溜り然し上と其相違
不中りり水溜りり麦川下村と云る故所押流し所洪水の程

と名の平井等より由り長八丁余の場所を以て勢を強く
歩上盤居し如く丈夫、容易に押切り多きは上川下
水道細く堀割水程より外手程より多きは山中
と唱へ均すも高三方石余の信儀を以て也

一松平丹波守城下邸本並堀土を在り酒垣町並に掘り
後世之布多豊後守飯山城下と皆決り上煙失ふ死人の數
多有之由且又若老守町より國往る所も野風並に皆決
り由あり信あり水より文科方郡重なる地産を以て也
一越后國高田並に去月廿九日豊後地産より進み風より
後より座り

有る多所内外に掃子出及水越書面通り所より先文
彫り後し兼り上重の通り所より取羽中より未だ難り
上り得共進し村より訴出り越之心より後より且之を以て
中より後と進み進み風より越之心より後より也

未四月

川上金吾助下

而事之所

○武部村並に越后國首領郡村、南二月廿四日夜四時地産
より進み死人五人あり之并用水堀堀土大破りし、山崩り
并田畑損地苗代田土冠り成者、内信州より村より事
長尾村より伊予守村余死人或百人余大谷村より山崩り泥
より武部文程冠法守村五軒死人五六拾人御前土冠り多

又与有出... 此處中... 以上

未四月朔

柳多或... 武家門者

越後國首領郡村... 之... 先... 者

○柳多或... 地... 延... 小... 之... 礼... 降... 水... 未四月

柳多或... 御所人

○出雲... 大地... 按... 同... 俊...

四月朔

奥... 爲... 二... 郎

越後國... 郡村... 地... 爲... 書

○新... 郡... 夜...

人足共八旬端出倉。居村之役人等も去後人等人居所宿伴七
八周章事在存者右為人。具是の物所用書物之件未ハ有年。有物
石連の事代也。目印列立道。支那所三才村ハ或拾町程程偏
地言。付同所向。好幾。途中振動。又後。知宿子村。一山水入
三才村程近。至。以水先系。是。余ハ水中を強。擧。揚。り
勢。射。手。延。去。追。り。途中。おの。く。水災。難。逃。誠。危。候。は。産。右。村
山。手。上。り。及。見。是。処。丹。波。高。川。中。島。迄。一。山。水。下。お。成。自。然。と
少。兵。内。分。水。先。量。兼。急。水。之。後。村。ハ。百。餘。丈。立。追。り。右。左。各。一
殊。々。銘。刻。之。後。付。夜。通。一。流。多。之。本。材。木。を。以。袋。拾。三。組。持
船。之。艘。四。意。中。付。振。板。を。お。持。取。以。て。お。待。ま。し。手。配。差。向。水
中。屋。根。上。或。ハ。立。木。三。登。り。居。力。の。共。言。物。通。集。り。の。共。石。海。助
半。一。支。配。所。村。之。者。共。ハ。三。才。村。并。他。所。之。り。有。之。言。交。神。代
宿。中。該。寺院。ハ。今。日。數。千。口。之。者。夫。食。手。用。法。を。私。後。と
同。川。通。村。之。也。廻。り。の。処。至。る。之。三。丈。余。之。水。當。り。水。勢。強。く。偏
卷。流。多。居。物。を。根。通。り。大。木。材。木。板。物。を。押。流。人。民。多
藁。屋。上。材。木。お。取。付。使。り。流。多。り。の。方。助。差。後。り。右。品。之。川
一。面。急。流。押。流。一。付。船。乗。出。置。渡。り。の。を。恐。れ。の。年。余。交。強。り
難。中。付。併。可。成。丈。形。代。を。以。お。助。り。持。用。意。を。致。以。付。村。之。者。多
中。海。音。言。識。以。前。代。未。開。之。大。浩。水。之。地。是。之。大。災。を。後。上。才
音。又。ハ。水。災。之。途。兼。而。是。悟。ハ。一。舟。り。の。共。未。嘗。者。一。洪。水
有。之。水。入。均。地。是。流。多。し。ハ。其。葉。屋。根。存。片。亦。亦。分。ハ。分
端。材。共。多。く。押。流。始。ハ。多。難。之。難。教。ハ。ハ。海。水。浸。お。成。災

害宮迫二階、以稻米雜糞、上村役人、大抵少、有者、二月
終、苦粒氣、在、殊不便、之、後、候、候、且、水、入、場、作
お、候、者、作、業、種、古、十分、之、出、來、形、也、此、屋、中、水、又、泥、積、り、也、此、成
秋、作、苗、水、本、錦、大、豆、亦、生、立、方、宜、處、同、様、泥、積、替、無、お、成、如、
何、其、心、也、一、以、極、在、此、屋、多、分、之、極、毛、粒、又、田、畑、中、押、堀、石、砂、入、お、之、
甚、代、生、來、出、身、清、不、自、身、清、不、可、悉、く、及、大、破、以、候、追、届、出、
大、地、主、居、之、節、亦、合、之、由、也、大、造、之、我、之、為、之、出、水、之、候、也、此、引、
為、同、十五、日、至、九、月、以、定、水、三、四、尺、極、之、水、出、也、此、成、内、郷、村、
湯、水、也、此、引、為、以、在、保、陣、候、在、外、早、く、引、為、以、在、水、貯、込、
之、者、之、種、種、之、分、也、故、而、障、り、也、或、不、可、實、法、有、之、候、也、
内、水、引、切、次、中、粒、又、手、附、代、出、具、分、之、上、時、節、後、此、成、候、
之、種、之、田、方、に、粒、付、苗、粒、再、貯、畑、方、之、分、也、此、毛、粒、作、業、之、成、大、
仕、付、方、為、此、斗、一、百、此、依、之、以、候、申、上、

未
四月

高本清在馬

御勘定所

分、領、此、村、亦、今、後、亦、何、也、此、
中、御、新、此、高、本、村、方、之、者、共、之、之、為、此、於、又、家、年、此、助、成、
人、是、此、為、此、多、此、人、此、教、此、是、此、出、此、精、此、之、此、用、此、之、此、付、此、の、此、共、此、在、此、伴、此、別、此、る、此、五、此、勢、
涉、防、此、至、此、流、此、各、此、溺、此、死、此、而、此、有、此、之、此、上、此、田、此、畑、此、泥、此、冠、此、且、此、亡、此、所、此、換、此、地、

於朝至進之減水之趣西原の代整之處為り有之或難斗
子存未水中之候也其年より委細之候に追て原備の上
之氏無少申しと云の上

四月十四日

堀長門守

○子曲川大洪水之候有込候事有る在法方より申届

一 本月甲午申届より申届五月廿二日夜大北原より屏川上申届
位徳寺領分山平林村地より宗^字虚空花山拉原屏川に押出川
中程立流氷を寒空有甚事分本月十三日迄日敷廿日より川上
付より水子息子有る処多あり方より海軍に言申法方より支配
所位別より并郡立花村海軍領御座り同日夜申候所位河邊進中

出より候事曲川筋出氷の氷先お見の処暫時にお坐り入る屏
川押埋の物も切御候候も有り候事申上り立候に付不取敢法方より
手代主より手配川通村に救も申水防より一差出候河原より
傳原^内内水信入家庄氷下にお成中野村に候も地^場地
所^付別番無事申進し人牛馬も申上り候事有る且子曲川
之候も同夜お降候と云候事申上り候事申上り候事申上り候事申上り
村共田畑より隔ち居水冠お申事申上り候事申上り候事申上り候事申上り
聖平官曉之時と云候事申上り候事申上り候事申上り候事申上り候事申上り
有る明夜申上り候事申上り候事申上り候事申上り候事申上り候事申上り
上取付^不健居人民は流し候事申上り候事申上り候事申上り候事申上り候事申上り
亦多く有る之候事申上り候事申上り候事申上り候事申上り候事申上り候事申上り

一三ノ丸

一門 一ヶ所

一櫓 一ヶ所

一土籠

一柵口

一園塀 石塀

一西曲輪

一門 一ヶ所

一住居

一土籠

一柵口

一櫓 一ヶ所

一園塀 倒

一土籠 一ヶ所

一井戸上屋

一大手

一門 一ヶ所

一門 一ヶ所

一土籠 一ヶ所

一切通石塀

一土籠 二柵口

一土籠 一ヶ所

一園塀 西之方側

一門 一ヶ所

一土籠 一ヶ所

一園塀

一板園塀

一土籠

一柵口

一土籠 一ヶ所

一物置

一土籠

一多門

一柵口

一門 一ヶ所

一門

一土籠

一土籠 一ヶ所

一外廻り

一稻倉 土蔵

一建家 土蔵

一土籠 一ヶ所

一土蔵 侍居宅

一土籠 土蔵

一土籠 燒失

一土籠 土蔵

一土籠 土蔵

一園門

一土籠 土蔵

一土籠 燒失

一土籠 土蔵

一土籠 土蔵

一因土氣

一三棟燒失

一二棟燒失

一五棟燒失

一因侍并小役者長屋

一拾八棟燒失

一拾或棟燒失

一三棟燒失

一番所

一三ヶ所燒失

一三ヶ所燒失

一三ヶ所燒失

一三ヶ所換

一春屋一ヶ所燒失

一用多所燒失

内

一土前一棟燒失

一内多棟燒失

但田初五百石不燒
燒失供

一門一ヶ所燒失

一長屋一棟燒失

一物多二ヶ所燒失

一廬一ヶ所燒失

一門一ヶ所燒失

一内馬場一棟燒失

一土上前一棟燒失

一作多小屋一棟燒失

一中島部屋二棟燒失

一船壳一棟燒失

一侍多并家内小役者下迄即死八拾五人

内男四拾人

女四拾六人

一城下町

一市高礼場一ヶ所燒失

但市高礼場一ヶ所燒失

一番所燒失

一同一ヶ所燒失

一土前一棟燒失

但田初千石不
燒失任

一竈五百四拾七軒燒失

一同三百拾或軒燒失

内七軒山前
作冠

一土前百七拾七軒燒失

一同五拾棟燒失

一土前上層斗ヶ所燒失

一室屋鋪

内多軒燒失

但室屋鋪我善屋

振ニおぬりし旦出火ノ後ニ先ニ一鏡ノ仕居ニ仕居ハ八ノ事ト也ト
不絶セしテ三ノ度ノ有ルあハ心ノ不レ出ル事ト表任居ニ仕居ハ何レ仕居ハ何レ地ニ
語ル事ト仕付ル事ト捕ル事ト表任居ニ仕居ハ二ノ年ノおシ語ル事ト雨ノ風ニ不レ
変ニ内ノ油ノ以テ不レおシ成ル快ク時ニ中ニ仕居ニ仕居ハ二ノ年ノおシ語ル事ト雨ノ風ニ不レ
仕居ニ仕居ハ後ニ便ニのレ事ト也ト仕居ニ仕居ハ二ノ年ノおシ語ル事ト雨ノ風ニ不レ

三月廿七日

○寛永十百二年三月二日ノ東ノ大ノ地ノ震ノ實ノ下ノ刻

一 同ノ年ノ五ノ月ノ五ノ日ノ越ノ后ノ國ノ大ノ地ノ震

一 慶安二五年六月廿日ノ江ノ戸ノ大ノ地ノ震ノ子ノ刻

一 元禄十五年十月十二日ノ地ノ震ノ以テ勅ノ午ノ刻ノ江ノ戸ノ

一 同ノ十六ノ年ノ十二月廿二日ノ大ノ地ノ震ノ江ノ戸ノ也ト職ノ官ノ也ト被レ申レ刻

一 寛延四年四月廿五日ノ白ノ大ノ地ノ震ノ口ノおシ借ノ金ノ事ト

一 文政十一年十一月十二日ノ尾ノ刻ノ越ノ后ノ國ノ長ノ岡ノ大ノ地ノ震

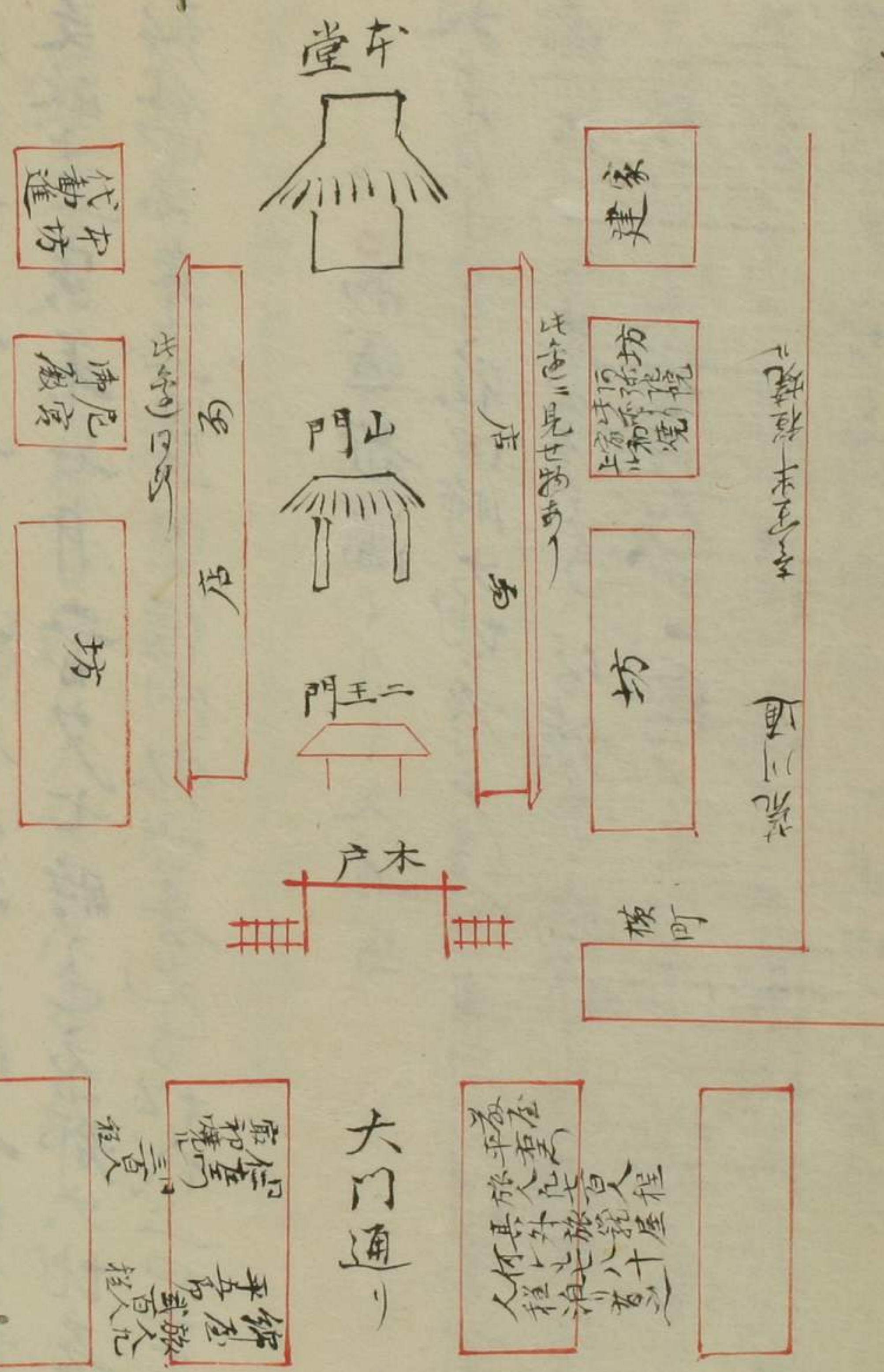
一 文政十三年七月二十七日ノ夕ノ七ノ時ノ也ト京ノ都ノ大ノ地ノ震

一 弘化四年三月十日ノ信ノ州ノ飯ノ山ノ善ノ光ノ寺ノ松ノ代ノ上ノ田ノ大ノ地ノ震

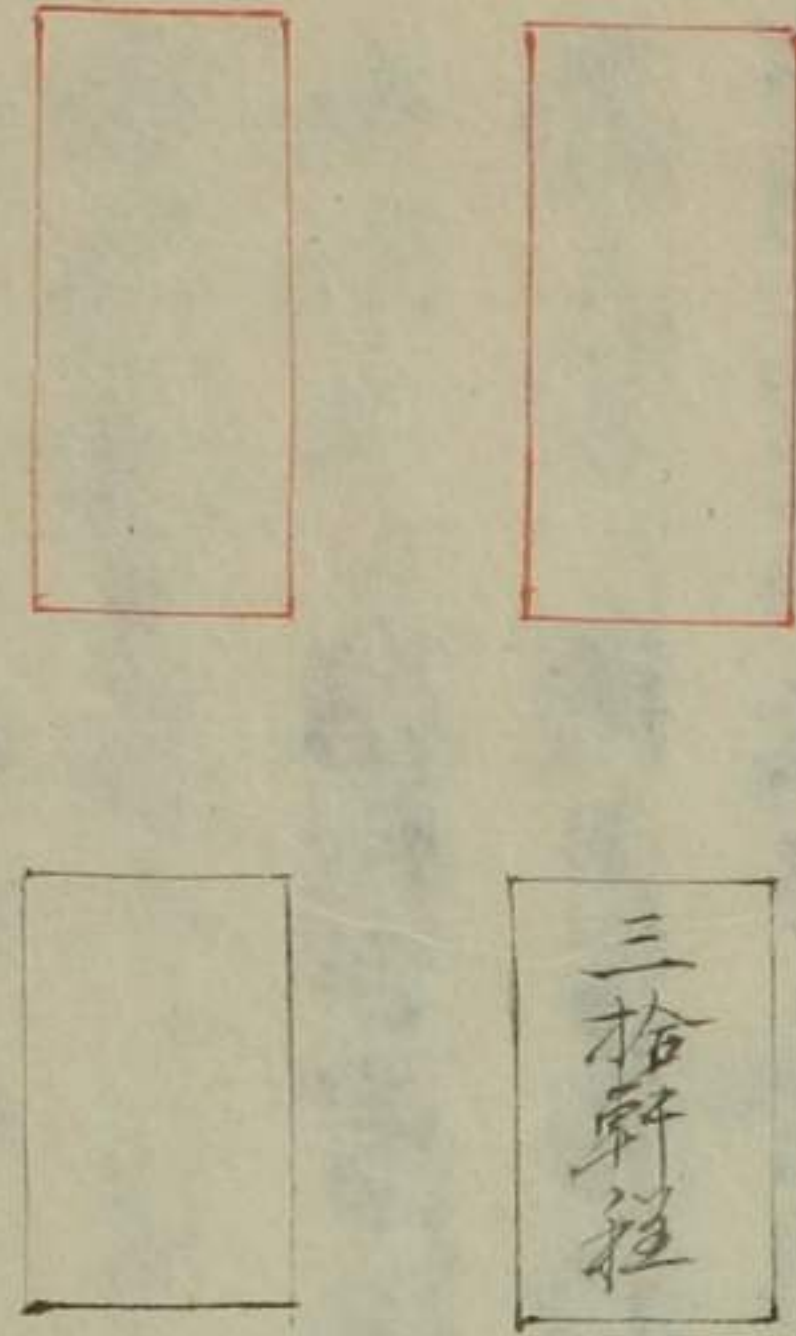
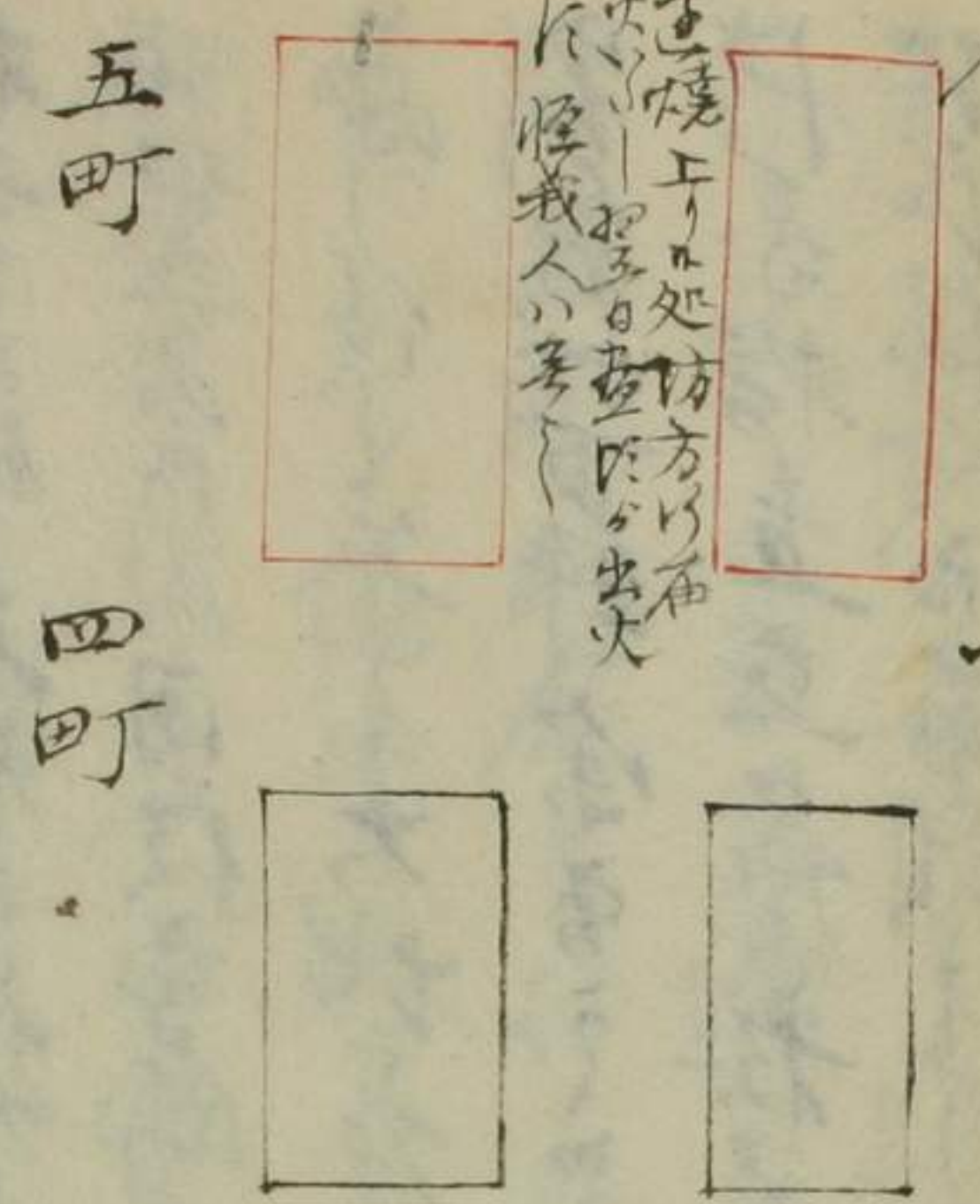
○北越新瀉より文通写

○ 扱先月廿四日夜四時大ノ地ノ震ノ信ノ州ノ善ノ光ノ寺ノ法ノ家ノ焼ノ失ノ也ト經ノ國ノ
面ノ入ノ出ノ現ノ也ト集ノ書ノ也ト分ノハレ以テ燒ノ失ノ也ト物ノ所ノ在ノ南ノ國ノ扱ノ余ノ程ノ等ノ者ト
之ノ聲ノ入ノ也ト大ノ地ノ震ノ位ノ何レ一ノ國ノ也ト死ノ人ノ凡ノ七ノ万ノ人ノ餘ノ也ト越ノ后ノ國ノ扱ノ余ノ程ノ等ノ者ト
教ノ不レ知ル也ト多ク也ト信ノ州ノ善ノ光ノ寺ノ廿四日ノ晦ノ日ノ也ト晝ノ夜ノ地ノ震ノ廿九日ノ也ト大ノ風ノ也ト
大ノ雷ノ也ト夫ノレノ也ト然レ也ト相ノ白ノ也トおシ波ノ止リ大ノ安ノ也ト新ノ瀉ノ也ト也ト也ト

善光寺境内并门前可法象焼失无之通り



寺堂焼下り此処坊方有
徳火のりおまひ
のり焼人ひま



善光寺境内并東通上原町出雲屋已之御中者此節善光寺権
堂所移居別庄村本屋伊勢方一止宿了一子存此處大地方

松代 皆潰不焼
須坂 残

飯山 皆焼

越後路

山田切 此辺五六軒

諸井 皆焼

二股 八九軒余

吉村 家数六十軒
釋方
山南
山南
山南

大田切 津

但英川子前川下節越後津無
津家おと免不中

之を信家其外燒失の場所又ありしに、
言已之物語ありしに

○信州子曲川通陸崎村國後普請具分并住立
所用中大地震及是時趣荒増中上

○杉平老淳の考知信州更級郡子曲川通陸崎村國後普請具分并住立
并仕立所用同役之給者八一同彼地在在不知去月廿四日夜四時
頃傳之云々大地震云々陸崎村言武子九百石余之村方物
家數六百軒余有之由所産如本分物蓋之可也外之
陸崎村言直立持教言四五百軒歩通之凡六七分通陸崎村
地は役人凡取調中ハ陸崎人凡取調人移有之趣也

新共彼地出立云々通之信家一申出之死人有之由也
人々彼之人數多連おふ事之趣也
信家剛助命を仕る吾者物々外家之下に在成翌夜
明之云々掘出之役也
燒失の云々
一國におも夜中ハ
水吹出又と泥土吹出
右地割き場所
白ひ甚急なる
白ひ急なる

一 去月十日、善光寺、五帳、有諸國、分、帝、諸、く、旅、人、夥、多、く、
 泊、り、高、き、寺、軒、に、旅、籠、屋、を、子、武、百、回、控、人、泊、り、に、存、り、内、子
 武、百人、を、旅、籠、屋、に、残、り、四、控、人、に、無、賃、を、泊、り、し、由、右、控、群
 集、り、杉、木、大、地、を、焚、き、去、り、之、を、町、荒、方、を、焼、け、外、出、火、を、死
 人、や、移、り、移、り、し、年、一、由、來、堂、に、就、け、旅、人、凡、三、千人、余、是、の
 年、難、立、退、る、其、衣、衣、を、針、跡、を、何、處、も、焼、失、し、遠、國、に
 者、扱、お、る、及、難、保、保、子、の、屋、に、如、來、堂、山、川、の、こ、お、涉、り、て
 外、と、市、中、一、回、不、殘、焼、失、跡、の、由、承、り、し、死、人、の、候、に、中、に、此、難
 お、分、時、よ、い、善、光、寺、町、斗、斗、即、死、人、武、三、千人、の、者、を、い、め、由
 因、所、町、人、別、者、り、廿、五、日、朔、朔、し、居、り、者、衛、武、三、百人、を、七、八
 年、の、難、時、に、此、屋、の、内、兵、是、時、に、逃、去、り、者、り、を、候、者、凡、も、人、數
 相、分、を、通、り、の、兵、い、つ、中、大、変、成、候、は、此、屋、に、

一 信州村々西之方隣宿上田臥稻倉山宿に候て、一屋に候り、と
 出火、系、不、残、焼、失、致、旅、人、を、外、即、死、人、夥、多、趣、り、此、屋、に、其、
 先、心、人、數、お、知、不、り、時、高、死、人、武、三、千人、と、事、に、此、屋、に、其、外
 中、に、焼、失、跡、一、の、宿、村、に、是、れ、死、人、多、く、有、り、候、に、候、に、存、候、に、
 一 信州佐井川に候、廿四日夜右地、流、り、節、を、流、り、留、り、廿、五、日、者、此、
 秘、共、彼、地、出、立、り、高、遠、一、切、を、り、無、く、是、迄、丹、波、高、宿、を、過、り、川、に、
 七、八、里、り、み、の、ち、に、物、を、劍、橋、を、り、由、右、前、後、に、過、り、山、南、跡、に、佐、井
 川、を、あ、き、き、り、ぬ、り、何、時、い、つ、方、か、出、火、致、り、難、事、因、所、川、附、り、分、隔
 候、場、に、者、せ、い、退、り、逃、去、り、右、前、後、を、り、上、田、臥、代、木、が、役、人
 出、陣、者、為、留、り、候、に、候、に、佐、井、川、に、甚、多、く、信、州、松、本、邊、湖、を、め、く、

子越處又一段輕く丸敷夜野宿を致し居り孫子に西原の
夫に武里中少少諸町夫に三里を追ふ宿を造り居り多々
山崎へ移し候へ無く大地を移し後とて兵を折り廿二宛
原の遠方より雄水峠を証す方裁り居り廿四日夜原
程に地を有るものと云ふ後ハ地を居り無く越し西原
右に所由中大変之候及見分り移し居り書面より西原
委細に候へ進し其場所を取網り上り候ふ存存
弘化四年四月二日
西原宿
西村豊内

信濃國大地原一件

西原宿
二丁寄兵八

西村豊内

○右原川通西原宿所用とて我越居處凡長十七里幅七里
程七所におもむ大地原の中より西原宿西原宿里人原宿
と傳ふ事ある次第第一先南原月節の場所仕南原下原勘
定所より孫氏共演説仕り通傍り承り知才に以此原に候て
世評よりいひおそるべき候事申候し難事ゆゑ荒原に
江戸上り去月廿四日有る人夜まで預物いり一町原に相体
て兵八仗燭書を借り小用二条り其燭を是内借り候て兵八
仗了縁が五六百先へて申出され是内ハ燭と諸兵二三町分

出され小者武人の雨戸よりかく成てそのまゝと諸を二三
百羽れ兵八之内を傷れしと雨戸おひらきより上一瓦
一度に家倒れし侍兵戸より上落の成仕合と怪我不仕誠
の園夜なるまじり龍の髪一さぐり遠より前をばらび
歩行いまらび下居るもゆつゆく度勅しゆくゆく目ま
ひ致し身跡爰まきまりぬ何れ後方ある人松の木一
すく付き人の柳の本にま付ゆゆくゆい木一すくゆ方一
遊去つるまじり四方小老若男女のあきこけよ若鷲爰
其内山より火燭吹出しやうお映しとらら小成四方津家
火を察し白昼の如くお成武人若子腰の物も無く立の侍等
ぬりて雨戸より大木にまじり漸夜をぬり雨澄文の別案各
之れと心配仕心痛くこ辺をお破りぬ処運能火辨ぬ物言流
瓶の湯家傷れり節一存もあつり火消ぬあり仕合と大事
少ふお成所説文を入り皮袋を堀出し先にお案のこし
雨の大小をも堀出しはる共刀のさやおれ用立不や股引半
天を外舞動ありさうり南り不やぬ者おと旅宿の勝手と有
之件心取集りし子説に狼喰ししお右るぬ堀出しはる
七不絶老勅ししお望月にお成るも一椀の食も無く雨降
出しそ上戸隠山の雲山崩の空気がありむを解氷のぬき物
風を吹送り土音に戸板を爰雨具無きゆ一夜具をかかり
雨雪を志の記法扁書をお隠山に分吹出しは硫黄の煙り
四方に焼灰お眼と入る倍道以前代未々の大妻お登舟

外号

移为社方房其法 建系法 四下 卷前中下不

一家中付居宅

四下中料法 六軒燒失 六軒半法 四軒一換

一日門

七赤法 二赤燒失 三赤半法 八赤換

一日土坑

三株燒失 二株法 五株半法

一日侍并小役之者半法

六株法 十二株燒失 三株半法

一番所

三下所法 一不 燒失 一不半法 一不換

一春屋 一不半法

一用多所 一不半法

内 土坑 一株法 日株數燒 一不半法 七下半法

物直 二不半法

一厩 一不半法

内 一不半法 内三物一不半法

一郭上房 一不半法

一作子少房 一不半法

一中房部房 二株燒失

一亦房 一不半法

一侍分等 男小役者下、迄即死八十六人 男四拾人 女四十六人

一城下町之内

一高札場 一ヶ所 燒失 但所言札外之意

一番所 一ヶ所 燒失 口一ヶ所 燒 粉所 一棟 燒失

一寓 五百坪 七軒 燒失 日三百廿九軒 燒 内七軒 山崩

一土蔵 百七拾七棟 燒失 日六拾九棟 燒 物魚百四所 三十九ヶ所 燒失

一土蔵上層 廿七棟 燒失 水車 三ヶ所 燒失

一寺院 本堂 三ヶ所 燒失 日六ヶ所 中法 日三ヶ所 燒失

一諸堂 廿三ヶ所 燒失 燒失 橋 四ヶ所 燒失

一城下町人 即死 三百二人 男百三十八人 女百五十八人

外 外人 男三人 釋多 娼婦八人 馬 八疋

一飯所 在方之内

一市高札場 十ヶ所 燒失 一日三ヶ所 燒失 一番所 二ヶ所 燒失

一以所 二ヶ所 一ヶ所

一山崩 山崩 幸中程 十ヶ所 燒失 山崩 幸中程 十ヶ所 燒失 七ヶ所

一居宅 二ヶ所 燒失 内 幸中程 山崩 幸中程 十ヶ所 燒失

一日七ヶ所 幸中程 燒失 一日廿三軒 燒失

一物產 子三ヶ所 燒失 日四ヶ所 燒失 中法

一水車 屋 三ヶ所 燒失

内 廿八所 内 廿八所 内 廿八所

一注 五拾九ヶ所

内 五ヶ所 内 五ヶ所

一寺院 十七ヶ寺

内 十二ヶ寺 内 五ヶ所

一宿舎 三ヶ宿舎 一門 三ヶ所

一諸堂 二拾八ヶ所

内 五ヶ所 内 五ヶ所 撞撞堂 二ヶ所

一橋 九ヶ所

一死失 五百廿一人 内 男 四百廿一人 女 百廿七人 僧 三人

一牛 三死失

一馬 貳百廿四死失

一荒地 五千六拾三ヶ所 外 荒れ地 數ヶ所

外 稻多し 七ヶ軒

内 六ヶ軒 一軒 脱失 女 一人死失

一用水路水揚 只一里余之難所 各宿舎其外村々用多し

一且此道而二ヶ所 橋立并山崩川欠 地裂少橋立木倒

一稻多し 難所 怪人 物多し 神不具 成農業者 出多し

一者多し 有之 在 怪人 一 候 物多し 難所 出多し

別段

飯山表 去月 十ヶ所 存 十ヶ所 定 各 一丈 三尺 在 稻川 邊 村 田

堰より
去氏甲子三つ

領分地を度りて陸原住居六十ヶ所及び石段并領内亡所物地
おらずに有る借し候しお影の御進

、思えり候し金十両百方お借し
御月返り候し候し

定より力、の御進

右程候しる有る度、少御進、下度

○四月廿日卯方有る御進、山由

新領分住列水内敷通月十二日亥刻迄に在り度川傍に出水仕

置十甲頃六町江田畑水押入蓋流せし候しお玉、の一人、

怪希田畑損失村、破損候し候し候し、大に大に地蔵居候

亦お振出九及、子取及、此、由、上、の、上

甲子年

本寺為、候

○新領分住列和代、去月廿四、夜大に地蔵、以、年、に、流、身、進、之

山由、その、御進、下、より、成、来、之、方、等、の、六、七、甲、程、隔、山、中、水

内、於、伊、折、村、梅、本、村、念、佛、寺、村、上、等、山、村、地、系、系、村、新、佐、尾、村、橋

岩、村、日、教、村、危、重、里、村、等、一、旦、大、姥、山、出、倉、糶、之、中、言、山、口、新、産

勤、農、之、始、業、迄、以、開、と、道、路、も、出、来、足、分、為、借、事、右、九、ヶ、村、之、義、別、に

大、災、之、産、亦、其、上、に、伊、折、村、新、佐、尾、村、梅、本、村、地、系、系、村、念、佛、寺、村

五、ヶ、村、之、石、山、甚、重、道、之、言、仙、古、村、内、平、津、組、別、雲、組、梅、本、村、内

城、之、越、村、親、居、組、地、系、系、村、内、為、法、延、横、道、組、伊、折、村、内、吉、田

一火災にて山根の村に引火せし

一全野千石の諸山に火災に罹りて甚多し其分て山根

者にてその火災に引火せし山根の村に引火せし

一山根の村に引火せし山根の村に引火せし

死に給ふ

一山根の村に引火せし山根の村に引火せし

一山根の村に引火せし山根の村に引火せし

一山根の村に引火せし山根の村に引火せし

一山根の村に引火せし山根の村に引火せし

一山根の村に引火せし山根の村に引火せし

一山根の村に引火せし山根の村に引火せし

一山根の村に引火せし山根の村に引火せし

一山根の村に引火せし山根の村に引火せし

一山根の村に引火せし山根の村に引火せし

一山根の村に引火せし山根の村に引火せし

○桶町三月十日傳花より者十二人

一山根の村に引火せし山根の村に引火せし

桶町一町地信

傳花

外十二人

一山根の村に引火せし山根の村に引火せし

二平岩程ありて相し極死危し同日夕刻至りし二階廊下下りて
三方止宿し一は廿四と違ふ一は江平家奥放達を
申渡りて二万一止宿人あり日暮時借法廿四申渡り時
降り歩敷ありて不意時以一旦大地震る傳花連し者傳起
骨形起中庭一方より証出又処右平家一方戸障子鴨居
ありしは震る表に証出は二階家より河より傳し右岩より
上を傳し遊返一達元三所程を之十三人一月三人遊返知し
中より連しもの待合処あり火燈出の骨を傳束を以り
謝廿六の形五半時と進十三人一月前夜生母難し伝お一
同連立夫より丹波川の方より遊返日暮時方小市より山
押出りり内より同前を以り伝し一は福寿山と違ふも
二寸程裂裂利流吹出一月半の骨と中より極死危し一月
止宿し一はあり者共一は絶中一は絶中一は絶中一は絶中
後にもあり断りありしは絶中一は絶中一は絶中一は絶中
難し中一止宿し一は日暮時一は絶中一は絶中一は絶中
地是れありしは絶中一は絶中一は絶中一は絶中一は絶中
屋方より真五八小僧より連廿四他より一月半時より一月半時
其のありしは絶中一は絶中一は絶中一は絶中一は絶中
二人より一月半時より一月半時

四月五日

お尋ね初苗三月十日十三人江平出立上州甘平新山
奉福美々雄水雄雄掛宿出分日廿二善走り

○未年海軍の末乃 四万の東をを人のある一みとなる
 地を考めて老もあきも位使の海軍の導山乃 藤
 志をねえりやりにある丹波川をたこ川の川を海軍を
 歌歌や 親や妻子よ生あれ半小引れて苦志をあり
 女の世をてわい能を再田々七能不でかく目より
 家の中一親いふ親をかかへたをを導海軍の導出
 海軍をえよりあき相の信んあき苦しき死す
 中事と出たりり立音て又いふ氏をたまに守るる

悔をよ人

三

○本多康房の御内在而能山あ中内死人
 早中祐吉社母死 仇之吉伴方人伴
 七之保の郎男子 平和桑柳
 早中佐五 杉本五子病妻
 口人伴 角田房花味
 福高の弟母 佐々木経道伴
 少田の弟次男あ 口人妻娘
 多利保の焼失 少西要人
 梅原久方人死孫死 田中源方人死妻死死女死
 堀金芳夫母 中島俊孝用娘
 伴奈平方人母以男 本多直亮母娘

水野をたつまあ
 中多中つる妻
 藤田伯祐之男
 名松林市方人娘
 伴方人
 口人妻孫
 本多惣三男子三人
 先んて死す并二人
 海山孫方人母娘

有勢多油此水澄き一町二切り船乗る川中あり川
前越後とてこの内は難くありしが松代に領主とて山とて遠
く林獨あり村に老翁男女矢代山より妻乗山と稱すこの如
く登坂を役人より上り出役く一合もを焚出—は故より且
又松代東の方より山川田山保科山とて一町二逆金屋に領主
手前山と稱す東の方より山とて一町二逆金屋に領主
役人より及村に之者とて松代に領主ありしが松代に領主
松代に領主ありしが松代に領主ありしが松代に領主ありしが

○ 弘化元年四月廿七日 弘化元年四月廿七日 弘化元年四月廿七日
為政の便に地を以

所屬形振りの地を以て弘化元年四月廿七日 弘化元年四月廿七日
此種より過早も示し如く連なる所は下流難ありは宜しき事也
其後弘化元年四月廿七日 弘化元年四月廿七日 弘化元年四月廿七日
此五町にありて地を以て弘化元年四月廿七日 弘化元年四月廿七日
弘化元年四月廿七日 弘化元年四月廿七日 弘化元年四月廿七日
江戸橋子重杉ありは弘化元年四月廿七日 弘化元年四月廿七日
例中のは弘化元年四月廿七日 弘化元年四月廿七日 弘化元年四月廿七日
弘化元年四月廿七日 弘化元年四月廿七日 弘化元年四月廿七日
弘化元年四月廿七日 弘化元年四月廿七日 弘化元年四月廿七日

御石伝し無事と云ふは為を語り所なり九氣動の
在延命半のりて心破りしはあまふら家なき位と云ふ事
より由物法代りて申述は由海軍の有り別無事位と云ふ事
急次弟と申し御守ありて連下り申上

四月廿三日

為しき所は此の國陸軍海軍御守ありて此の地は
かゝ御守あり共此切下り初め如き事無き事あり
強打有り十六日以迄ハ六七十度位大蛇の音と云ふ事
あり候もけく音味ありなく存しあり候事考へて
地は震るも速いしやうり地上に震るカキ氣もお考へ
ありし事考へては海軍大佐大佐の御守ありて
此の事考へては知不中是の小子支配所中し世傳り
下り共夫名有り追々養育し飯山の方ハ善光寺位
無し強く有し候事考へては海軍大佐大佐の御守あり
弱き方ハ此の事考へては

任深書

減部
は好記の事なり

○六月十四日

松平 伊勢守
若代 眞津島左衛門

御分地は多岐中御守ありて并領内御守ありて御守あり

禮お新越

所極う為難俊被

思右ハ依之金三千方拜倍被

仰付

右於美其為本列産下青山野守ハ得

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

